

# 第1回アジアロータリー親善会議略報

◎1989年3月22日～23日／台北市・国賓大飯店

ロータリーアジア親善会議コーディネーター 大橋章一

1988年3月マニラ市において開催した、予備的会合ともいえるアジア4カ国ロータリー親善会議に引き続き、同年8月台北市に日本の菅野多利雄元R I 理事、韓国の呉在環元R I 理事、フィリピンのベニー・アントアコP G、中華民国の黄敬誉ガバナーなど関係者16人が参集し、会議の正式名称、規約および第1回会議日程などを検討した結果、今後この会議に4カ国以外にも参加するアジアの国々があるものと想定、名称も ROTARY GOOD WILL CONGRESS IN ASIA (ロータリーアジア親善会議) とし、毎年4カ国が交代で開催することになり、第1回会議は1989年台北市ということに決定しました。

そして3月22日～23日、日本の菅野多利雄元R I 理事、韓国の呉在環元R I 理事、フィリピンのオスキー・ベネシアガバナー、中華民国の黄敬誉ガバナーをはじめ、約200人が参加し“親善—成長与奉獻”のテーマのもとに、台北市国賓大飯店において盛大に開催されました。

菅野元R I 理事の「会議が机上の論議ではなく、具体的な実りある成果をあげてほしい」、呉元R I 理事のサムエル・ウルマンの

“青春という名の詩”を引用された「ロータリーの奉仕が私に青春を抱かせてくれる」というとともに奉仕の実践を求められた基調講演は、参加者に深い感銘を与えました。

2日目の中華民国政府連戦外務大臣の「21世紀におけるアジアの国々の政治、経済上の諸問題」の記念講演は、今回の親善会議をより一層、意義あるものとし、オープンフォーラムでは、お互いの交流、短期青少年交換、姉妹クラブ締結、WCSの問題など活発な意見が述べられ、また米山記念奨学会の資料がぜひ欲しいという要請もありました。閉会式で次回開催国は日本ということが決議され、2日間の会議を終了しましたが、アジアのロータリーは親睦とともに、奉仕の実践をも強く求められた今回の会議でした。

ホストをされた李超然委員長、黄敬誉ガバナーと台北市内各ロータリークラブの皆さまの見事な会議運営と、お心のこもった温かいおもてなしに厚くお礼を申し上げます。また日本の皆さまにはソウル国際大会前にもかかわらず50人という大勢のご参加をいただき心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。(佐野 第255地区 PG)



第348地区黄敬誉  
ガバナーあいさつ